

特別企画: 第9回 東海3県のレジャー施設経営40社の実態調査

合計収入高 1582 億円、前期比 3.2%増

～「減収」企業が半数を占め、優勝劣敗が鮮明に～

はじめに

夏休みも中盤戦に突入した。当地区では、2017年4月に開業した日本初となる「レゴランド」(名古屋市港区)のほか、2018年10月には中部国際空港に「フライト・オブ・ドリームズ」がオープン。「ラグーナテンボス」(愛知県)や「牧歌の里」(岐阜県)では事業主体者の変更後、集客強化に向けて趣向を凝らすなど、レジャー施設運営各社は「コスト消費」に対する意欲の高まりに乗り遅れまいと知恵と工夫を凝らしている。

帝国データバンク名古屋支店では、企業概要ファイル「COSMOS 2」(147万社収録)を基に愛知、岐阜、三重(以下、東海3県)に本社を置くレジャー施設経営業者40社の収入高など経営実態を調査した。本調査は昨年が続いて9回目。

※帝国データバンク産業分類で「公園」「動・植物園・水族館」「博物館、美術館」「遊園地」などに該当する企業を中心に抽出して分析した。なお、LEGOLAND Japan(株)は実績が判明しないため集計の対象外とした。

※最新期は、原則として2018年度(2018年4月～2019年3月)だが、それ以外は判明している最新期を用いた。

調査結果(要旨)

1. レジャー施設40社の最新期の年収入高合計は1582億2700万円、前の期の1532億5700万円から5.3%の増加で2年連続での増収となった。しかし、「増収」11社(前年は16社)に対して「減収」20社(同14社)、「横ばい」9社(同10社)と、個別では苦戦を強いられている事業者が多い。
2. 40社の最新期の当期損益合計は84億2100万円の黒字で、前の期(80億円)と比較して5.3%の増益。リーマン・ショック以降、2008年度と2009年度は2期連続で赤字を強いられたが、景気の回復やコスト削減、さらには設備投資など集客強化に向けた取り組みが奏功している施設が増えたことが貢献した。
3. レジャー施設40社の県別内訳は「愛知」が20社でトップ(「岐阜」11社、「三重」9社)となり、全体の半数を占めた。当期損益では、「岐阜」が2年ぶりに黒字となったほか、「愛知」「三重」とともに増益となった。
4. 40社の県別の収入高は、「愛知」が976億9300万円でトップ(金額ベース構成比61.7%)となり、次いで「三重」が584億2600万円、金額ベースで36.9%を占めた。「三重」は『ナガシマリゾート』『鈴鹿サーキット』『志摩スペイン村』『鳥羽水族館』などの大型施設を擁するとともに、施設数そのものが少ないこともあり、1社あたりの収入高は64億9200万円と2位の「愛知」(48億8500万円)の1.3倍以上の水準に達している。

1. 最新期収入高——収入高 1582 億 2700 万円、2 年連続の増収

東海3県のレジャー施設経営業者40社の最新期の合計収入高は1582億2700万円で前期比3.2%の増加、2年連続での増収となった。中部国際空港、モビリティランド、長島観光開発の上位3社で1155億700万円、全体の73.0%を占めた。

前の期との比較では、「増収」が11社となり、前期から5社減少。対して「減収」が20社と半数を占め、積極的な投資を進めている上位企業の好調さと比較し、中堅以下企業との2極化が進んでいる状況が一層鮮明となっている。

表1. 収入高の前期比較 (単位：社)

	最新期	構成比	前期	構成比
増収	11	27.5%	16	40.0%
減収	20	50.0%	14	35.0%
横ばい	9	22.5%	10	25.0%
合計	40	100.0%	40	100.0%

2. 最新期損益——84 億 2100 万円の黒字、9 期連続の黒字確保

40社の最新期の当期損益合計は84億2100万円の黒字(前期比5.3%増)で、「増益」となった企業は19社(構成比47.5%)、「減益」は10社(同25.0%)だった。「黒字」企業は前期から増加しており、業務の効率化など各社の収益改善の取り組みが奏功している様子が窺える。

表2. 当期損益の前期比較 (単位：社)

	最新期	構成比	前期	構成比
増益	19	47.5%	13	32.5%
減益	10	25.0%	15	37.5%
不明	11	27.5%	12	30.0%
合計	40	100.0%	40	100.0%

※赤字幅の縮小も増益としてカウントした

表3. 個別企業の損益

	最新期	前期
黒字	17	14
赤字	7	9
不明	16	17

表4. 赤字企業の分析

	最新期	前期
連続赤字	4	3
赤字転落	3	6

3. 収入高トップは中部国際空港、上位3社で全体の7割強を占める

年収入高トップは中部国際空港の635億8000万円で前期比8.9%の増収となった。2005年に開港した「中部国際空港(セントレア)」の事業主体で、空港事業が5割強を占めるが、物販や飲食店、温浴施設などからの賃貸収入も重要な収益の柱になっている。インバウンドの増加に加えて、複合型商業施設「フライト・オブ・ドリームズ」の開業などが好調持続の要因となっている。

2位はモビリティランドの271億1800万円で前期比5.1%の増収。『F1』や『8耐』など国際レーシングコースで知られる「鈴鹿サーキット」(三重県鈴鹿市)や敷地内で乗り物遊園地「モーターピア」を運営する。最新期はホテルと遊園地の両部門とも堅調な来場者に恵まれたことから、2期連続での増収となった。

3位は遊園地「ナガシマスパーランド」や日帰り温泉施設「湯あみの島」、花のテーマパーク「なばなの里」、ホテルやアウトレットモールなどのナガシマリゾートを運営する長島観光開発の248億900万円。酷暑や台風直撃などによる天候不順や、主力アトラクション「ホワイトサイクロン」のリニューアル工事の影響などで、前期比2.2%減と2期連続減収となった。

4位は中日ドラゴンズのホームスタジアムで、中部地方で最大級の屋内コンサート会場でもあるナゴヤドーム。当地区におけるスポーツのメッカである。ドラゴンズ以外にも、コンサートやイベント開催による集客も重要な収益源となっている。

5位はラグーナテンボス。大手旅行会社エイチ・アイ・エスによるてこ入れを受け、イルミネーションやプロジェクションマッピングを活用したイベントを開催することで、ウインターシーズンの集客も進めている。

表5. 収入高上位10社

(単位：百万円)

順位	商号	所在地	主な運営施設	最新期収入高	前期収入高	前期比増減率
1	中部国際空港（株）	愛知県常滑市	セントレア	63,580	58,410	8.9%
2	（株）モビリティランド	三重県鈴鹿市	鈴鹿サーキット	27,118	25,804	5.1%
3	長島観光開発（株）	三重県桑名市	ナガシマリゾート	24,809	25,365	▲ 2.2%
4	（株）ナゴヤドーム	名古屋市東区	ナゴヤドーム	8,200	8,000	2.5%
5	（株）ラグーナテンボス	愛知県蒲郡市	ラグーナテンボス	4,540	4,324	5.0%
6	（株）名鉄インプレス	名古屋市中村区	日本モンキーパーク	4,521	4,847	▲ 6.7%
7	（株）げんきの郷	愛知県大府市	げんきの郷	3,600	3,622	▲ 0.6%
8	近鉄レジャーサービス（株）	三重県志摩市	志摩スペイン村	3,300	3,300	0.0%
9	（公財）名古屋みなと振興財団	名古屋市港区	名古屋港水族館	3,252	3,467	▲ 6.2%
10	（株）鳥羽水族館	三重県鳥羽市	鳥羽水族館	2,270	2,298	▲ 1.2%

4. 当期純利益、トップは中部国際空港

当期純利益の1位は、中部地区の空の玄関「セントレア」を運営する中部国際空港で62億700万円。空港利用収入や商業事業の安定的な伸びの一方、販売管理費の膨張を抑制できた効果などから、前期比13.0%の増益となった。2位は、当地区を代表するアミューズメントパークを運営する長島観光開発の6億5700万円。最新期は減収の影響に加えてエネルギーコストの増加や人件費の増加が響いたため、前期比16.2%の減益を余儀なくされた。3位は国内モータースポーツの先駆けとして知名度が高く、「鈴鹿サーキット」「ツインリンクもてぎ」を運営するモビリティランド。当期利益は6億4500万円で、増収効果もあって前期比37.5%の増益を達成した。4位の鳥羽水族館は、三重県と鳥羽市も出資する第3セクター。「飼育種類数日本一」をキャッチフレーズに掲げ、季節に合わせた限定イベントを積極的に展開、概ね安定的な業績を計上している。5位の名鉄インプレスは名古屋鉄道の100%出資子会社で、世界屈指の霊長類動物園「日本モンキーパーク」と世界各国の民族文化を紹介する「リトルワールド」、明治時代の建造物や文化などを伝える「博物館明治村」などを経営。単なるレジャー施設にとどまらず、様々な知識を学習できる施設のオペレーションを徹底している。

表6. 最新期税引後利益上位5社

(単位：千円)

順位	商号	所在地	主な運営施設	最新期 税引後利益	前期 税引後利益	前期比 増減率
1	中部国際空港（株）	愛知県常滑市	セントレア	6,207,000	5,493,000	13.0%
2	長島観光開発（株）	三重県桑名市	ナガシマリゾート	657,000	784,000	▲ 16.2%
3	（株）モビリティランド	三重県鈴鹿市	鈴鹿サーキット	645,000	469,000	37.5%
4	（株）鳥羽水族館	三重県鳥羽市	鳥羽水族館	356,608	262,036	36.1%
5	（株）名鉄インプレス	名古屋市中村区	日本モンキーパーク	263,453	225,883	16.6%

5. 県別内訳——「愛知」20社で収入高976億円、最終黒字確保は7年連続

東海3県のレジャー施設経営業者40社の本社所在地を県別にみると、「愛知」が20社で全体の50.0%を占めてトップ。「岐阜」が11社（構成比27.5%）、「三重」は9社（同22.5%）だった。

最新期の合計収入高をみると、「愛知」が976億9300万円（前期比4.6%増）、以下、「三重」（584億2600万円、同1.0%増）、「岐阜」（21億800万円、同2.9%増）と3県とも増収となった。

表7. 県別内訳

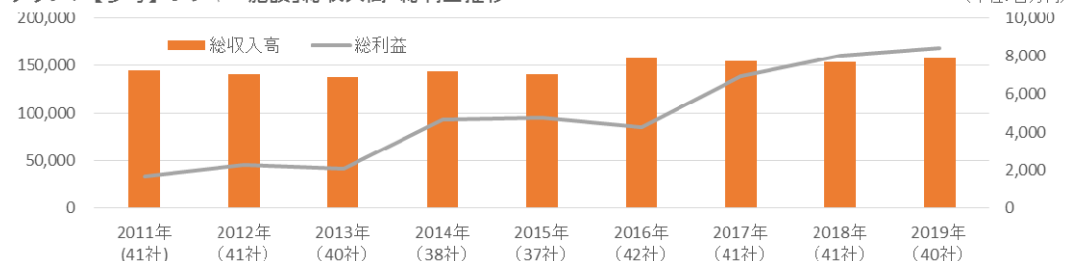
（単位：百万円）

	社数	構成比	最新期 収入高	前期比 増減率	収入高 構成比	1社当たり 収入高	最新期 当期損益	前期比 増減率
愛知	20	50.0%	97,693	4.6%	61.7%	4,885	6,752	2.4%
岐阜	11	27.5%	2,108	2.9%	1.3%	192	9	黒字転換
三重	9	22.5%	58,426	1.0%	36.9%	6,492	1,659	14.6%
合計	40	100.0%	158,227	3.2%	100.0%	3,956	8,421	5.3%

1社あたりの収入高は「三重」が64億9200万円でトップ。「愛知」は48億8500万円、「岐阜」は1億9200万円にとどまった。東海3県には年収入高100億円を超えるレジャー施設運営会社は中部国際空港、長島観光開発、モビリティランドの3社があるが、そのうち2社が「三重」に所在する。このほかにも上位企業が多く、大型施設が「三重」全体の収入高を下支えしている。一方、「岐阜」は博物館や美術館などの文化的な施設は散見されるが、大型テーマパークがなく、1社あたりの収入高は「三重」の30分の1以下の水準となった。

当期損益では、「愛知」が中部国際空港や名鉄インプレスなどの上位企業に牽引された結果、損益額合計は67億5200万円（前期比2.4%増）となった。「三重」は、長島観光開発が減益、モビリティランドが増益とメジャーパークの2社で明暗が分かれたが、全体の損益額合計は16億5900万円（前期比14.6%増）となった。「岐阜」は大型施設の運営事業者が少ないが、増収効果もあって2期ぶりの黒字転換となった。

グラフ1 【参考】「レジャー施設」総収入高・総利益推移



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 名古屋支店 担当：中森、猿渡
TEL 052-561-4846 FAX 052-586-5774